



写真は公民館で行われ
た一日人権相談所

相談件数激増する 一日人権相談所開設

去る五月二十五日、市公民館で一日人権相談所が開設された。人々の生活の営みの中には人権を無視された事柄が少なくなく、それも残虐な人権侵犯でなく、さ細な感情問題や苦情的なものも含まれている。この日に取扱われた件数が飛躍的に増加していることも、人権意識にめざめ、泣き寝入りしが少なくなったことといえよう。

当日の出席者は擁護委員岡野瑛、関誠一、秋元義雄、佐藤武夫、弁護士小松崎広嗣、法務事務官小滝正吾、藤田一郎等の諸氏で、取扱件数は四四件にのぼった。相談者を男女別にみると半々で、年令的には五〇才以上が六六%、三〇才以下が一九%となつており、内容は次のとおりである。

- 土地の問題 一五件
- 離婚による慰謝料 七件
- 貸家の問題 三件
- 嫁と姑の関係 二件
- 資金の取立 二件

その他 一五件
肌着類八十三点
市内木之地町某氏は生活困窮者にと、市福祉事務所を訪れ肌着類など八十三点を寄託された。

家庭的な理由が大半 長欠児童の実態まとめ

市福祉事務所では、市教委、市内小、中学校の協力を得て長期欠席児童の実態調査を行つてきたが、このほどその決果がまとまつた。

十七名で、児童総数の二%、中学校八十二名で、生徒総数の四%となつてゐる。これを原因別にみると次のとおりである。

- ① 本人によるもの 四一%
- ② 本人の疾病異常 七二%
- ③ 勉強が嫌い 二二%
- ④ 友人にいじめられる 三%
- ⑤ 学校が遠い 二%
- ⑥ 家庭によるもの 五九%
- ⑦ 家庭の無理解 六九%
- ⑧ 教育費が出せない 六%
- ⑨ 家族の疾病 六%

二村の慰霊碑
工費三〇万円がかねて建立計画中であつた市内三村の戦没者慰霊碑は、須賀神社境内に内定、今秋完成を目前としてゐる。

市民の声
雨の多い六月は石岡の水不足を心配する。その心配を軽減して、国分寺協働の天池の貯水池化を実現したい。同池は市街地で最も高地にあり、市内各貯水池へ配水ができ、国分寺観光の一環となるほか、国分山下川、両岸水田の用水にもなり、しかも工事が容易であるからだ。(国分町民)

市報前号の「社会教育はこ
社会教育の強化に一言
市報前号の「社会教育はこ
社会教育の強化に一言
市報前号の「社会教育はこ
社会教育の強化に一言

- ① 家事の手伝 四〇%
- ② 本人によるもの 三〇%
- ③ 本人の疾病異常 六〇%
- ④ 勉強が嫌い 四〇%
- ⑤ 家族の疾病 七〇%

お母さんの作文朗読 石小校で母に感謝の会



深谷校長

市内石岡小学校校長深谷重雄氏、正しい規律、正しい礼儀、正しい教育、正しい感謝を目標として児童教育が施され「母の日」制度以来、毎年母に感謝を捧げる会が催されてきた。
本年は、去る五月に市公民館で感謝の会が開かれ、五百余名のお母さんたちが参集した。PTA会長浜平右工門氏は、「子どもが我家に帰つて先づ一番に呼ぶのは「お母さん」といふ言葉であり、子

このほど石岡小学校及び石岡中学校は、県教育委員会から三十一年度学校評価研究作成協力学校に委嘱された。これは本県の実情に即し、教育の現場に適合した小、中学校の学校評価基準とその尺度を作成するための資料を提供し、評価に協力するためのものである。

| 町名 | 出生 | 死亡 |
|----|---------------|--|
| 石岡 | 出生五四人 死亡二人 | 死亡者 小松崎 七三 山崎 六九 野間 六一 野間 六三 野間 六四 野間 六五 野間 六六 野間 六七 野間 六八 野間 六九 野間 七〇 野間 七一 野間 七二 野間 七三 野間 七四 野間 七五 野間 七六 野間 七七 野間 七八 野間 七九 野間 八〇 野間 八一 野間 八二 野間 八三 野間 八四 野間 八五 野間 八六 野間 八七 野間 八八 野間 八九 野間 九〇 野間 九一 野間 九二 野間 九三 野間 九四 野間 九五 野間 九六 野間 九七 野間 九八 野間 九九 野間 一〇〇 |